

これら新たな開発が検討されている地区は、従来開発されてきた地区に比べて資源の状況は良好とはいえないが、資源の実体が的確に把握され、合理的な開発により、有効に利用されることを期待したい。なお、愛知県珪砂鋳業協同組合・(株)加仙鋳山には採掘場・水簸工場を見学させていただくとともに、瀬戸の珪砂・粘土資源について多くの資料を提供していただいた。また、東海工業(株)名古屋事業所には、採掘場と珪砂精製プラントを見せていただき、八草地区の状況についてお教えいただいた。ここに記して謝意を表します。

文 献

愛知県珪砂鋳業協同組合(1997): 創立70周年記念誌「ガラスのふるさと瀬戸」. 愛知県珪砂鋳業協同組合, 34p.  
 中山勝博(1990): 東海層群-2, 美濃地方. アーバンクボタ, no.29,

p.13-15. (株)クボタ.  
 大塚寅雄・近藤善教・佐々木政治・高田康秀・下坂康哉(1968): 瀬戸市周辺地域の珪砂および耐火粘土資源. 43p. 愛知県地質調査所.  
 瀬戸市(1986): 瀬戸市史「自然編」, 瀬戸市.  
 下坂康哉(1978): 東海北陸地方の窯業原料. 地質ニュース, no.283, p.50-62.  
 下坂康哉・中山勝博・倉林三郎(1990): やきもの用粘土をめぐる一木節粘土・蛙目粘土を中心に-. アーバンクボタ, no.29, p.48-64.  
 須藤定久(1999): 瓦の話(3) 愛知県三州瓦と原料粘土. 地質ニュース, no.541, p.47-53.  
 須藤定久(2000): 東海地方の窯業原料'99. 地質ニュース, no.552, p.23-29.  
 種村光郎(1964): 愛知県瀬戸地域の粘土および珪砂鋳床の地質学的鉱物学的研究. 地質調査所報告, no.203.

SUDO Sadahisa (2000): "Setoyaki" pottery and industrial minerals of Seto-city and Surrounding area.

< 受付: 2000年6月8日 >

話 題

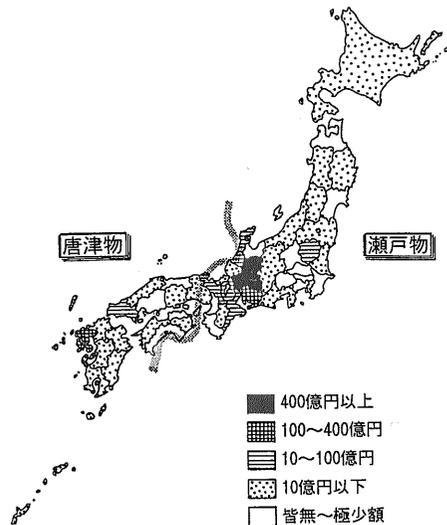
「瀬戸物」と「唐津物」

「瀬戸物」と言えば陶磁器の代名詞である。もちろん我が国最大の陶磁器産業地帯である瀬戸～美濃地方の磁都「瀬戸」に由来する言葉である。

かつて、西日本では陶磁器は生産地「有田」から唐津の港を経て運ばれてきた。このため、陶磁器の代名詞は「瀬戸物」ではなく「唐津物」だったという。「唐津物」という言葉が使われていたのは、概ね中国・四国以西の地域であったが、石川県の一部で「唐津物」、高知県の一部で「瀬戸物」が使われていたという(右図参照)。

西日本出身の地質調査所の職員の何人かに聞いてみると、例えば広島県では第二時大戦前には既に「瀬戸物」という言葉が使われるようになっていたという。「唐津物」と「瀬戸物」の使用範囲は江戸末期の舟運による物資輸送経路によっていたようで、鉄道輸送が盛んになった昭和初期頃から、次第に「瀬戸物」という語が西日本へも広まり、全国的に使われるようになったようだ。

(須藤定久)



都道府県別の陶磁器製和飲食器の生産高。

(1987-90年頃の工業生産統計による)  
 美濃焼の岐阜県が最も多く、有田焼の佐賀県、瀬戸焼の愛知県、波佐見焼の長崎県などがそれに次ぐ。